

DMZ（非武装地帯）視察で考える・・・

江原道春川市にあるハルリム聖心大学にて“北東アジアの平和共存に向けた日韓平和フォーラム”が開催され、そのフィールドワークとして12/7朝からバスに乗ってDMZ・高城の統一展望台へと向かいました。

「DMZ（非武装地帯）を平和と生物多様性の世界遺産に！」と文大統領が国連総会で提案しました。今回のフォーラムでも“DMZ平和の世界遺産と平和主義の日本国憲法9条を守り続けていくことで日韓の市民連帯で北東アジアの平和を構築していこう”と語られました。



DMZは38度線を中心に韓国の西から東へ向かって250km幅4kmとのこと。高城のDMZは丁度韓国の東海（日本海）側の最北端。青くきれいな東海に浮かぶ大小の島々。手前の島は韓国領土、その先の小さいくつもの島は朝鮮民主主義人民共和国（DPRK）の領土。今はそれぞれの施設が軍の銃口を向けることなく静かに存在しています。休戦ラインを・DMZをはさんで銃口を向け合っていた時から大きく転換しようとしている（トランプ・金・文大統領の話し合いで）今こそ韓国・DPRKと米国と中国との間で休戦から“終戦”を一日も早く実現し、永久平和の北東アジア構想を作っていきたいものです。

展望台から見える金剛山の山々の美しさ、青い海。何でこんなに美しいところで人々が殺しあったのだろうか？冷戦時代の朝鮮戦争とはいえ朝鮮の人々に大きな傷を残したであろうことは想像に難くありません。朝鮮半島への侵略と植民地化、そして中国大陆への侵略と米英との戦争で1945年8/15敗戦。その後平和国家を目指した日本の市民と、“3・1独立運動”を続けた韓国人民とが平和を願い、一人ひとりの庶民の思いを今こそ現実のものとするべき・・・と思われまます。

DMZの展望台の周りにも多くの韓国市民が観光にやってきました。おみやげ物売り場ではどこの観光地でも見られるような楽しい会話や買い物がされていました。戦争の休戦協定の非武装地帯が“観光”の対象であることには一種の違和感がありますが、銃の弾が飛び交う場所よりも観光地になっているほうが何ほどこすばらしいかを感じました。

バスのガイドさんからは、板門店近くの「自由の橋」「帰らざる橋」の名前や「南進のためのトンネル」の状況が語られ、その冷戦下の悲劇と戦いの現場が観光化されていることも語られました。

朝鮮半島の非核化と平和、それはとりもなおさず日本の非核化と平和の内実の実現をどう本当のものと出来るのかを問うてきます。

文政権の進める所得主導政策・非正規の正規化への労働政策・学校給食の無償化と有機農業・普遍的福祉の推進など新自由主義経済・グローバル経済の中での格差と貧困を解決する挑戦的な道は、私たち日本における格差と貧困、不安定な老後・福祉を解決するための“分かち合いの経済”への道と軌をいつにするもの。朝鮮半島と日本という北東アジアの一角から世界の現代的な課題を解決する経済と政治を作り上げ北東アジアに非核平和地帯をつくっていきたいです。DMZの平和と自然の世界遺産、そして日本国憲法の絶対的平和主義を実現しましょう。

